市長あいさつ

皆さんこんにちは。北九州市長の武内和久でございます。今日はミライ・トーク in 八幡東区にお越しいただきましてありがとうございます。今日は食生活改善推進委員の皆さんが八幡餃子を使った味噌汁を作って下さり、皆さん召し上がられましたか。しかも餃子を入れるだけではなく、減塩の健康にいい味噌汁を作っていただき、本当に美味しかったですね。そして、八幡高校の皆さんの演奏からスタートをしました。この若い皆さんが、将来八幡東区、そして北九州市をどのように作っていくのか、このベクトルを合わせようということで、ミライ・トークを開催させていただいております。

八幡東区は、過去も未来も全部あります。「東田第一高炉跡」もありますし、また日本の、あるいは北九州市の産業を作ってきた場所でもあります。同時に「いのちのたび博物館」や「スペースラボ」などの未来を担うような要素もたくさんあります。また、「河内藤園」や「皿倉山」などの自然もあります。いろんなものがたくさん詰まっているのが八幡東区の魅力です。たくさんあるからこそ、それだけにどういう方向でこのまちをさらに盛り上げていくのか、みんなの色々な意見があるかと思いますが、老若男女問わずみんなで意見を出し合って、新しい次の時代に向かっての八幡東区の姿を一緒に描いていきましょう。私個人も、八幡東区民ですので、自分の地元として一緒に参加していきたいと思います。

それではこれから限られた時間ではございますが、区役所の若手職員が一生懸命に工夫して作ってくれた会でもありますので、それも楽しんでいただきながら、この時間を過ごしていただけたらと思います。それではみなさんどうぞよろしくお願いいたします。

パネルディスカッション

進行（丸川）：

本日ファシリテーターを務めさせていただきます丸川と申します。本日はパネリストの方４名と区長と市長ということで、パネルディスカッションを行っていきたいと思っております。まずは、パネリストの皆さんにご登壇いただきます。

お一人目は畠中聡之様です。初代八幡ぎょうざ協議会会長で全国餃子サミットを開催するなど、長年、多方面にわたり、地域のまちづくりに関わっていらっしゃいます。八幡東区自治総連合会会長でもあり、八幡東区社会福祉協議会副会長でもいらっしゃいます。よろしくお願いいたします。

お二人目は吉田夏帆様です。株式会社光タクシーに勤務され、枝光本町商店組合連合会の広報担当理事でもいらっしゃいます。枝光本町商店街アイアンシアターの運営をはじめ、商店街の賑わい創出のイベントに携わっていらっしゃいます。5 歳の女の子を子育て中とのことです。よろしくお願いいたします。

続いて、お三方目は岡橋正之様です。株式会社ワシダ代表取締役社長でいらっしゃいます。団体や企業、個人で構成する自主的な市民団体である「八幡夢みらい協議会」幹事長として、八幡のまちづくりに取り組んでいらっしゃいます。よろしくお願いいたします。

最後に、金子幸奈様です。九州国際大学　現代ビジネス学部地域経済学科　地域づくりコース　３年生です。八幡中央区商店街で実施の「子ども食堂」に参加し、食堂に訪れる子どもたちとの交流イベントに携わっていらっしゃいます。よろしくお願いいたします。

そして喜洲区長と武内市長にもご登壇いただきます。よろしくお願いいたします。

本日はお手元に「いいね!ボード」をお持ちいただいていると思いますが、皆さんどうですかとお聞きするタイミングでいいなと思ったらあげていただきたいと思います。

ここからはパネリストの方にお話を伺っていきますが、パネルディスカッションに入る前に区長よりコメントをお願いいたします。

喜洲区長：

皆さまこんにちは。八幡東区の区長をしております、喜洲と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日はたくさんの方にお越しいただきまして誠にありがとうございます。これだけたくさん来ていただいて、わたくしの方からは若手職員が先ほどしっかり説明してくれたのであまり補足するところはないのですが、もう一度整理して、区の課題と強みについて説明させていただこうと思います。

先ほど説明にありましたように、人口減少と 36%という高い高齢化率、大規模未利用地の発生など課題はありますが、観光資源では、日本新三大夜景に選ばれた皿倉山の夜景、河内藤園の素晴らしい自然と景観、世界遺産の官営八幡製鉄所の関連施設、いのちのたび博物館など、他都市から十分に人を呼べる施設がたくさんあります。

また区の強みについては、鉄道並みの力強さのバス、病院・文化・教育移設の充実などの住みやすさ、東田の IT、環境、新エネルギーなど未来社会を作る取組み、そして歴史、科学、博物館、KGG など学びの機会の豊富さ、そして八幡餃子、堅パン、溝上酒造など豊富な食文化の楽しみ、そしてまつり、起業祭や祇園山笠、学生の研究フィールドなど地域の関わりなどたくさんの強みがあります。私もこちらに赴任してきて 4 か月となりますが、地域の方々の結びつきの強さ、また企業の皆さんの地域に対する貢献心の強さ、熱心さ、学生たちの行動量など、まだまだ強みがあると感じているところです。ピンチをチャンスに変える原動力、皆さんが知っている八幡東区の強みを教えていただきたいと思います。

進行（丸川）：

ありがとうございました。いま区長からも、強みやピンチをチャンスにとありましたが、課題も色々とあるかと思いますが伸びしろと捉える事もできると思っております。本日は様々なバックグラウンドをお持ちのパネラーの方にご登壇いただいておりますので、少しずつ八幡東区の魅力、強みあるいは課題についてお話を伺ってまいりたいと思います。それではお一人目、畠中様よりお願いいたします。

畠中氏：

八幡東区の魅力については、皿倉山、日本新三大夜景、河内貯水池を中心とする観光資源、東田を中心とする環境未来都市づくり、そして 800 年以上続く 7 つある祇園山笠の継承、そして JICA を中心とした国際交流のまち、というように非常にユニークなまちがこの八幡東区にはできています。

その中でも重要なポイントだと思う強みは、世界遺産のある東田沿線を中心とした環境未来都市、それを取り巻くミュージアムパーク。歴史と未来が集積したこのエリアが将来性を感じさせる最も重要なエリアだと強く感じています。

進行（丸川）：

ありがとうございます。観光や伝統文化、環境のお話などがありました。また、ミュージアムパークについてもお話しいただき、歴史的なものと未来のものが一緒に集まっているところが魅力であるとおっしゃっていただいたかと思います。歴史と未来が一緒にある面白さについて具体的にどのように感じれおられますか。

畠中氏：

このミュージアムパークを中心とした様々な行事が東田では毎年行われています。その行事の中で、地元の子ども達が一緒に参加し、ミュージアムを盛り上げていくような取組がだんだんと進んでいます。そのような意味では、この地区を中心として新しい世代の子ども達がすくすくと育っているのではないかと感じています。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。確かに歴史もあるけれど、今やっている行事には子ども達も一緒に参加して作っている、それが未来を創っていることにもつながっているところが独特で魅力的であるということかと思います。また、後ほどご意見をお聞かせいただきます。
　それでは続いて、吉田様から魅力や課題について感じておられることをお聞かせください。

吉田氏：
　私が感じる八幡東区の魅力は、八幡製鉄所とともに発展してきたまちの歴史、そしてそれに根差したルーツのある魅力的な場所、モノ、人が多いことです。特に人がたくさんいらっしゃると思います。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。場所、人、モノが魅力だということでしたが、特に人というところをぜひお聞かせください。

吉田氏：
　場所にもモノにもたくさんの人が関わられていて、例えばこの素敵なミュージアムパークであったり、商店街であったり、もともと八幡製鉄所の工場があった跡地を再開発しているところであったり、そこで働く人や関連企業で働く人々と共に発展してきたまち。商店街、地域活動がとても盛んだと思います。商店街や地域活動でたくさんの先輩方とお会いするのですが、皆さんとてもパワフルで、八幡のことを誇りに思っていて、このまちをもっと良くしたい、もっと多くの人に広めたいという気持ちを熱く感じる、八幡愛を持った方が多いと感じています。
　その一方で課題にもつながりますが、八幡東区は数十年前と比較すると先ほどもあったように人口も減っていて、働く人も減っています。そのため、これから先の未来、数十年先を考える時には、住む人も、働く人も、また学ぶ人も色々な側面からまちを引っ張っていく人をもっと増やす、そして減らさないということが課題となるのではないかと感じています。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。キーワードとして八幡愛という言葉が出てきました。パワー溢れる人が様々な活動に参加している中で、全体の人口減少に伴い関わる人が減っていく。その中でどうやってたくさんの人にそのような活動に参加してもらうかが、課題でもあるが、そこに魅力を感じておられるというお話だったかと思います。ありがとうございます。
　それでは続いて、岡橋様からお願いいたします。

岡橋氏：
　先ほどから出ていますが、八幡東区は高齢化が非常に進み、空き家や空き店舗が多く、公共施設が老朽化しているなどありますが、その中で東田地区の再開発や大型商業施設ができるなど、それらを活かしたまちづくりがいいのではないかと感じています。例えば、東田にアウトレットがありますが、遠方からもかなりの人が集まっています。通常アウトレットは郊外にあってまちとの距離がありますが、このアウトレットは街中にあります。ですからそれを活用する手はないと思っています。せっかく来ているのに、買い物だけで帰ってもらうのではなく、アウトレットに来た方をどのように循環させるかというまちづくり。つまり、ちょっと寄ってみたいという所を、ひとつではだめかもしれないですが作っていく、少し尖ったまちづくりがいいのではないかと感じています。
　また 2 つ目には、高齢化はここだけの話ではないですが特に八幡東区は高齢化が進んでいて、今後さらに高寿命化社会となるということで、今よりさらに健康というテーマが重要になると思っています。八幡東区には素晴ら

しい自然がありますので、健康をテーマとした自然を活かしたまちづくりもいいのではないかと思います。こと消費を中心とした体験型施設などを検討してもいいのではないかと思っています。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。2 点ポイントとして挙げられていて、来た人を他のところへも循環させるということと、自然がたくさんある中で健康をテーマとして、こと消費、モノを買うということではなく、体験をすることが大事であるということで、この 2 つはつながるのではないかと思いました。例えば、“こと”ということに関してどのようなことにポテンシャルがあるとお考えでしょうか。

岡橋氏：
　例えば、こと消費として言えるかわかりませんが、河内に以前九州民芸村というものがありました。そこでは、焼き物や織物がありました。いま、あのような施設があればいいなと思いました。例えば新しく、九州民芸村のようなものをつくり、そこで体験型施設を展開する。高齢者や健康ということだけではなく、そこに若者をいかに巻き込むか。皿倉や河内の整備も非常に大事だと思っています。あの自然の中にそのような新しい施設ができて、綺麗なレストランやお洒落な喫茶店などができれば、少し行ってみようかな、というようなまちづくりをすることによって、人が循環する、動くのではないかと思っています。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。民芸村のような体験できる施設があればいいというのと、自然が豊かで、今風で言えば“映える”というような、そこへ行ってそこでお茶を飲んでみたいというような場所が増えてくると、アウトレットに来たついでに他にも行ってみようというように、八幡東区の中でたくさん滞留してもらうことが大切であるというお話だったかと思います。
　それでは最後に、金子様から魅力や課題についてお聞かせください。

金子氏：
　八幡東区を中心に、商業施設が充実していることは、とてもアピールポイントになると思います。暮らしやすさにもつながっていますし、アウトレットも来ましたので、もっとアピールしてもいいのではないかと思います。また、私たちが地域づくりの活動をさせていただくにあたって、地域の方たちが非常に寛大であたたかいと感じています。大学生だけでこれをやりたい、じゃあやってみようと言っていきなりできるものではなく、人が見向きもしてくれないこともたくさんあるのですが、地域の方がすでにやっていることに対して私たちが協力をさせていただくという形を取れている、そこに寛容に受け入れてくださっているので、そういうところはすごくいいなと思います。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。暮らしやすさについてあげていただいたのと、大学生として地域づくりに関わっていらっしゃる活動の中、大人と地域の先輩方と関わっていく中で受け入れてくださっていると感じておられるというお話でした。実際に受け入れられていると感じられた具体的なエピソードなどがあれば教えてください。

金子氏：
　紹介の際にあげていただいた、子ども食堂とは別に、近くに地域の方が作っている菜園もたまにお手伝いをさせていただいています。先輩の代からお手伝いをさせていただくことになったらしく、私たちはまだそれほど多くは行けていないのですが、今年から積極的に行こうということで関わらせていただいています。そのようなときに、私たち

が参加させていただいている側なのに、手伝いに来てくれてありがというという言葉をいただいたり、少ない収穫量にもかかわらず我々にも野菜を分けてくださったり、本当にあたたかいなと感じています。

進行（丸川）：

ありがとうございます。今のお話を伺っていて、お互いに“尊敬”の気持ちがあるのがいいなと感じました。わたくしも色々な地域でお手伝いをさせていただいていますが、なかなか若者が来ないんだという地域の方は大体、自らが偉そうであるというか、なぜ来ないんだと思っているところがあったりもして、そういう所も若者が感じるところがあるのではないか思っています。おそらく八幡東区で関わっている地域の方々は、「来てくれてありがとう」という尊敬の気持ちがある、というところで、関わる学生の皆さんも地域の方々を尊敬している。そういう関係があることが大事ではないかということで、そういう点が東区のいいところではないかというご意見でした。ありがとうございました。

それではいったんここで区長から、小中学生が考える将来像、八幡区の未来ということで、パネルをご紹介させていただきます。

喜洲区長：

今回、私たちがミライ・トークをするにあたり話を進める中で、子ども達がなかなか夢の話をしなくなったのではないか、もしかするとお金がかかるということなどを考えて、言っても無駄だという雰囲気になっているのではないか、という話になりました。ということで、夢をもっと語ってもらおうということで、今回、八幡東区の小学６年生、７校 12 クラス約 300 名、また九州国際大学附属中学の 3 年生 240 名、そして高校生 31 名の方にパネルを作成ただきました。未来について語ってほしいということで、付箋を貼っていただき、全部で 21 枚のパネルができました。こちらにはいま 4 つしかありませんが、先ほどふるまい味噌汁をやっていた会場に展示させていただいています。

パネルにありました意見を一部だけですがかいつまんでご紹介させていただきます。小学生からの意見で、「USJ が欲しい」、「スペースワールド復活」、「水族館」、「野球場」、「フォレストアドベンチャー」、「アドベンチャープールが欲しい」、というような「こういう施設が欲しい」という話。「花や木が溢れるまち」、「お年寄りや体の不自由な方が安心して住めるまち」、「環境に優しいまち」、ということで、小学 6 年生ともなると勉強されていて大人のいうようなご意見もありますが、子どもらしい意見もあるという状況です。中学生の意見にもやはり「スペースワールド」「水族館」「プールが欲しい」という声がありました。それ以外にも、「歴史的な建物を残しつつ、現代の風潮に沿った建物を建ててほしい」ということで、近未来的な、東京などで立っている建物をイメージしているのではないかと感じました。また「皿倉、河内、東田を結ぶ交通網の整備」という大人のような意見もありました。さらに、「ここは世界一と思えるまち」というような意見がありました。それから高校生の意見としては、「ご当地グルメが有名なまち」、また「外国人観光客が増えているため、外国人に寄り添い観光しやすいまち」、「歴史と文化を誇るまち」、「東京を超える世界注目の最強都市」とこのような声がありました。

このような子どもたちの意見を踏まえて、皆さんの考える八幡東区の未来像を語っていただきたいと思います。現代は、行政だけではなく、民間、学生ベンチャー、スタートアップなど、様々な方々が IT や AI などこれまでにない方法で、色々な形で実現する時代ではないかと思っています。夢は夢ではなく、それをどう実現するかを考えていくのが大切だと考えています。これまでつながりがなかったもの、尖ったもの、魅力、それらを掛け算して新しい創造ができないか、ぜひ皆さんにアイディアを出していただけたらと考えています。

進行（丸川）：

ありがとうございます。本当にたくさんの子どもたちの意見がまとまっていますので、こちらのパネルもぜひお帰りの際にご覧いただければと思います。歴史を残しつつ現代風のまちが欲しいであるとか、ここが世界一だと思えるまちというのも、確かに 10 年後 20 年後に実現したら物凄く力強いなと思います。

ここからはもう一巡、パネリストに皆さんにお聞きしていきたいと思います。パネラーの皆さんが考える区の将来像についてお聞かせいただきたいと思います。それでは畠中さんからお願いします。

畠中氏：

二つありますが、一つは、5年前に、旧八幡市政100周年という記念事業がありまして、この中で八幡東区のまちづくりをどう考えるかという部会を開き、八幡東区を 7 つのまち、中央町地区、東田地区、八幡駅前地区、高見地区、桃園地区、枝光・大蔵・平野ほか斜面住宅市街地、そして皿倉・河内地区と分けて、そこでの強み弱みというのを分析し冊子にしました。これは市に提言書として提案した経緯があります。各町でビジョンについて強みと弱みが分析されているので、そういう分析を基にディスカッションしていくことが面として広がっていくのではないかと非常に強く感じています。

もう一つは、やはり中心地の活性化が一番パワーを発揮できると思いますので、この東田沿線の新しいまちづくりは外せないと思います。環境未来都市といのちのたび博物館や、スポーツラボを中心としたミュージアム構想。新しいアウトレットができたり商業地域ができたり、そしてその周辺には IT 企業群が八幡東には集積しています。それらと地区とがコラボをして次の雇用を創造し、広げていくような取組が必要ではないかと強く感じています。

逆に課題としては、例えばミュージアムパークと名乗っているが、パークの姿がなかなか見えない、というような意見もあります。そして、東田地区のブランディングの確立がまだまだできていないという問題もあります。また、文化を見つめた取組みがまだまだなされていない。ミュージアム構想の中での地域と地元が見えていない。人の交流が地元の交流につながっていないというような課題もあります。東田を中心として、東田沿線を取り囲んだ居住地となる枝光地区、中央地区、八幡駅前地区において、モビリティなども取り入れていますが、この居住地のつながり、交流ができるまちづくりをしていくことが重要ではないかなと感じています。

進行（丸川）：

ありがとうございます。スライドにも映っているとおり、旧八幡市政100周年の事業で作られた各地区の強み、弱みをベースに話を展開していくと将来の八幡地区がより良くなっていくのではないかという話がありました。特に、東田沿線のまちづくりが重要で、課題もある中で、起業と地域がコラボすることや様々な人が訪れる場所と地域がどうつながるかがポイントになるのではないかというお話だったかと思います。

地域とどういう形でつながっていくのがいいのか、何かアイディアはありますでしょうか。

畠中氏：

35%の高齢者が住んでいるまちですので、その高齢者と子どもたちがつながるまちづくりが必要ではないかと思います。そのためには、交通手段の問題もあるため、いくつかの課題があるかと思いますが、そういったものを確立させていくのが必要だと強く感じています。

進行（丸川）：

前半のテーマの中でも、行事を子どもたちと一緒に作り上げていくことが大事であるということで、そういった仕組みが大事ではないかという話がありました。将来像の中でも、高齢者と子どもがつながる大事であるという話だったかと思います。ありがとうございました。

それでは続いて、吉田さんが考える将来像についてお願いします。

吉田氏：

八幡東区が将来、八幡愛で溢れるまちになってほしいと思います。八幡東区の魅力の一つにいまのマンパワーがあるのですが、すでにポテンシャルとして八幡東区には今日も話に出ている様にたくさんの魅力があると思っています。それらを支えていくには、やはり人のつながり、若い方々、これからの次世代の方々のつながりが重要ですが、こういう方々が何でつながるかというと、まちへの愛、愛着を持って横につながる力がすごく大きいと思うため、その愛で人も増えるし、愛も増えるようなまちになってほしいと思います。

進行（丸川）：

ありがとうございます。八幡愛で溢れるまちをつくるために、横でつながったり、愛着を持って人と人とがつながることが大事であるというお話だったかと思います。吉田さん自身がいま、まちで様々な活動をされているかと思いますが、その中でポイントだと思われることや横のつながりがこうすれば生まれるのではないかというアイディアなどはありますでしょうか。

吉田氏：

私も難しいと思っているのですが、発信力を強めることが重要ではないかと思います。伝えるものは、特に区内の人には二つあると思っていて、一つは、今いる人たちが楽しんでいる姿、愛があるということを、若い人や子どもたちに伝えていくことと、もう一つは、個人とまちの接点があるということ、こういうイベントがある、こういう活動がある、というつながれる接点があるということを伝えていくことが大事だと思います。同じ子育て世代の知り合いと話をしていて衝撃的だったのが、地域の情報を知るのは難しいと言われて、それも実はこの８月５日にこういうイベントがあるという話をした流れでした。せっかく今日のようないい機会だったり、まちづくりのイベントはいろいろなところで開催されていますが、近い距離にいるのになかなか知る機会がすくなかったり、私自身も商店街のイベントが終わった後に痛感することがあります。今はいろいろなツールがあるのでまずは発信するということ。

また、外の人にとっても、八幡は外から来る人に心が広いまちだと思っています。私も八幡の出身ではないですが、元々製鉄所ができたときに色々なところから人が集まって住み始めてできたまちなので、外からの人に対しても新しいことをすることにも寛容な土壌があると思います。そういう人に対しても、八幡がすでに持っているポテンシャルをどう発信していくかが重要だと思っています。

進行（丸川）：

ありがとうございます。外の人への発信も大事だし、関わりしろというか、関われる機会を作っていくことも大事なのではないかというご指摘だったかと思います。どうやって関わってもらうかを発信する側も考える必要があるのかなと感じました。

続いて、岡橋さんより将来像についてお考えをお聞かせください。

岡橋氏：

先ほど、人が循環するという話をしましたが、その延長線で話をしたいと思います。一つは掛け算で言うと、「商店街の空き店舗とチャレンジする若者と行政の支援」という中で、同じような商店街づくりをしても、なかなか人は集まらない。地元の人は来るかもしれないが、遠方からわざわざ行ってみようという商店街にはなかなかならない。あくまで一例ですが、いま餃子協議会は非常に一生懸命に取り組まれているので、餃子ロードを作るとか、胃袋をつかむというのは非常に効果があって、アウトレットで買い物したついでに食べに行こうという話になってくると思います。そのような店舗づくりやまちづくりは面白いのではないかと思います。

それをさらに進める中で、掛け算をもう少し大きくすると、例えば「東田と夜景と世界遺産」という掛け算にしていくと、北九州市は日本一の夜景で、有名かどうかは分かりませんが、それで売り出しています。つまり、アウトレットで買い物をした後に夜景を見に行きましょうということ。函館の夜景はよくご存じだと思いますが、函館は夜景があるだけではなく朝市があるため、泊らざるを得ない。つまり、一泊をするので、落とす金額が全然違ってきます。そういった形で、日本一の夜景を活かしながら、食などを絡めて宿泊へつなげていく。いま、八幡東に宿泊施設はなくなりましたが、宿泊することで北九州市内の活性化につながっていくのではないかと思います。

また、世界遺産についても一時は言われていましたが、いまはあまりアピールされていません。直接入ることができず、遠目からしか見られないということがありますが、中はとてもきれいに整備されているため、どうにかして直接入ることができたり、目の前で見ることができたりすれば本当に素晴らしい世界遺産だなと思っています。大変かもしれないですが、入れるようにしてしっかりと世界遺産を PR していくことに取り組むのもいいのではないかと思います。

また先ほど申し上げたように、「高齢者と健康と若者」という掛け算の中で、河内や皿倉を整備する。河内の藤園は外国人が SNS で発信したことをきっかけに日本人も行くようになり、有名になった経緯があります。若者を引き付けるためには、インスタ映えするものをどうやって作り上げるのか、皿倉や河内にはたくさんそういったものがあると思っているため、活かしていければと思います。

進行（丸川）：

ありがとうございます。特に印象に残ったのは、「掛け算」のお話だったかと思います。若者と空き店舗の話だったり、夜景だけではなく朝市までセットになっていることによって滞在時間が増えるということ、また若者を引き付けるためにという話がありました。また「循環」という話もキーワードとしてあったかと思います。おそらく東区の中で個のコンテンツは強いものはあると思いますが、掛け算をしていくために、具体的なアイディア、きっかけづくりは何かありますでしょうか。

岡橋氏：

それぞれみなさん色々な観点があり、どう掛け算するか、が面白いのであって、今私が申し上げたのはあくまでも一つの例ですから、その掛け算を少し変えることによって、全く視点が変わってきて面白いものができてくる。つまりはこういった会も含めて、議論を重ねる、協議をするということが一番大事なことだと思っています。ですから今日のような会は非常に大事であると思っています。

進行（丸川）：

ありがとうございます。いいね！が上がっています。まさに今日のように議論を重ねることが新しい一歩につながるかなと思っています。

続いて、金子さんより将来像についてお考えのところをお聞かせください。

金子氏：

今あるポテンシャルを活かしてということや、それを発信するということは、今皆さんがおっしゃっていただいたので、私がこの先、2、30 年後だけではなく 100 年後も残ってほしいと思うのは、今あるあたたかい人たちの人と人とのつながりは残ってほしいと思います。印象として、福岡市や東京など、ここよりももっと都会に出ていくほど、現代は職場での人間関係はあっても、住んでいる場所での人間関係を築いている人がすごく少ない印象があります。もしかすると築いていらっしゃる方もいるかもしれないのですが、外から見ていて都会は人とのつながりが薄い印象があるので、ここはいまから発展していくにあたって、発展していく間にそれがなくなってしまうのは悲しいというか、

人と人とが関わることでしか生まれないものが世の中にはたくさんあると思うため、それはずっと残っていってほしいなと思います。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。少し違った観点で、無くしてはいけないものとして、人と人とのつながりということで、発展していってほしい、賑わってほしいという話がある一方で、なくなってほしくないものが人と人とのつながりという話だったかと思います。金子さんは大学生でありながら、地域に出ていく中で、色々な人とのつながりを感じる機会に恵まれて、そのように思ってくださっているのかと思いますが、地域とつながっていない、ただ学校と家の往復をするだけの大学生がもう少し地域に関わってくれるようにするためにはどうしたらいいか。たくさんの人の良さにつながってほしいと思ったときにどんなやり方があるか、何か考えていることはありますか。

金子氏：
　いま私たちがさせていただいている子ども食堂もそうなんですが、まずは世代の近い私たちが同じ大学生に向けて頑張って発信をしていくところから始めないといけないと感じています。
　少し話がそれるのですが、子ども食堂は実は、地域内の方よりも地域外の方のほうが積極的に企画などをしてくださっています。子どもが好きな地域の方もたくさんいるのに、なんとなく入れていない。ここに学生である立場を利用できると考えています。学生であるというだけで、大人たちは少し寛容になってくれますし、子ども達は他の大人たちよりも年齢が近いので心を開いてくれやすい。だからこそ私たちが間に立ってたくさん発信をしていく、若い世代がもっと頑張る必要もあると思っています。

進行（丸川）：
　若い世代が発信をすれば、若い世代にも届くのではないかというご意見だったかと思います。ありがとうございます。

質疑

進行（丸川）：
　さてここからは、会場の皆様にもご参加いただきたいと思います。事前にアンケートにご記入いただき、八幡東区のポテンシャルや未来についてご意見をいただきました。会場にマイクを回しますので、ご発言いただける方はぜひお願いします。また、発言の内容に共感した、いいなと思った方は、いいね！カードを上げていただければと思います。
　まずは 20 代の方からですが、八幡東区の魅力、ポテンシャルについて「皿倉山やいのちのたび博物館など屋内外に楽しめるスポットが充実している。」また、「駅周辺に施設が集まっているので遊びに行きやすい」といった声がありました。こちらをご記入いただいた方はいらっしゃいますでしょうか（会場内で挙手なし）。
　次に 30 代の方から、あなたの目指す区の将来像についてという問いについて「住みやすいまちづくりにより、若年者に移住を働きかけたらいいのではないか」というご意見がありました。
　また 20 代の方からは、課題について「高齢化で山も多いため、買い物弱者がいるのではないか」また「空き家の問題があるのではないか」という声がありました。また将来像として「高齢者、若者、外国人などみんなが暮らしやすいまちをつくったらいいのではないか」と書いてくださった方は居ますでしょうか。このように思われた背景を教えてください。

参加者Ａ：
　留学生の方が暮らしに困っているという話を読んで、せっかく来ていただいて勉強したり働いたりしてもらっているのに、暮らす場所や暮らしに困っているのはよくないと思いました。色んな人が暮らしやすくなることでまちが発展していくのではないかと思い、書かせていただきました。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。会場の反応はいかがでしょうか。たくさんいいね！が上がっています。
　畠中さんにお聞きしたいのですが、高齢者が暮らしやすいまちとはどんなまちになればいいと思われますか。

畠中氏：
　高齢者は経験値を持っているので、その経験値を子ども達の場などで発揮できるような仕組みを作っていくことが必要ではないかと思います。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。金子さんにもお聞きしてみたいと思います。外国人、高齢者の話が出ましたが、学生が住みやすいまちとはどんなまちだと思われますか。

金子氏：
　率直な感想としては、今の八幡東区はとても住みやすいと思います。交通の便もよく、学生は遊びに行きたいので、そういうのが充実しているのがいいと思います。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。それでは次のアンケートに移りたいと思います。八幡東区の魅力として、これは蔵元のことかと思いますが、「天心の魅力を知ってほしい」と書いてくださった 30 代の方はいらっしゃいますでしょうか（会場内で挙手なし）。
　続いて、40 代の方から「化石燃料の使用を脱却したまちになればいい。女性が活躍できるまちになればいい」と書いてくださった方はいらっしゃいますでしょうか。ありがとうございます。このように思われた背景について教えてください。

参加者Ｂ：
　わたくし自身、そのような研究活動をまさに八幡東区でやっているということもあり、また北九州市は、環境首都としても実はグローバルに知られているまちで、そういったところをもう少しアピールしていければいいなと思います。また、そういった方向性にすでに向いていらっしゃると思いますが、みんなでまちづくりの観点として、大きな企業だけではなく、地元の企業も色々と作っていくなど。それこそ、脱炭素の日本酒づくりや、脱炭素な宿泊サービスを提供するなどは、すでに日本でも見られていることなので、ぜひ八幡東区でもやっていければいいなと思います。また女性が活躍するという点では、このような会議があると、今日は女性が登壇されていますが、どうしても年配の男性が並ばれる機会が多いので、そういったところをみんなで変えていければと思います。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。脱炭素と女性の活躍のお話がありました。吉田さんにお聞きしたいと思いますが、お母さんでもあって地域の活動もされているわけですが、活躍されていて何か感じてらっしゃることはありますか。

吉田氏：
　私がこのような場にお声がけいただいたのも、会社含めて商店街、地域の方々、本当に周りの方に恵まれていて、理解があってやりたいと思ったことをさせていただいたり、やったことに関してご指導いただけることばかりです。先ほどの話にもつながりますが、本当に地域の人とのつながりに尽きるのかなと思います。一方で、地元ではないため、不安も多いのですが、頼れる人が居るから挑戦できるということがあるので、不安のある方が声を上げられる、頼れる環境をつくるのが大事ではないかと思います。

進行（丸川）：
　いいね！が上がっています。ありがとうございます。声を上げて頼れる人がいる環境をつくることが大事だというお話だったかと思います。
　非常にたくさんのご意見をいただいておりますが、そろそろお時間となりそうです。必ずすべてに目を通させていただきますのでご意見をどうもありがとうございました。

パネリストによる「○○なまち」発表・まとめ

進行（丸川）：
　それでは最後に振り返りをさせていただきます。パネリストの皆様に本日お話しいただいたことのまとめとして、目指す将来像を「○○なまち」という形でお答えいただきたいと思っております。では、畠中さんからお願いできますでしょうか。

畠中氏：
　「進化する東田。子ども達の夢と希望が満たされるまちづくり。」です。

進行（丸川）：
　これはどんなイメージでしょうか。

畠中氏：
　いま、東田大通公園は人の姿がまだまだ見えないというか、つながりがまだまだ本当の強みになっていないと思います。子ども達がのびのびと動けるまちになっていくと、当然活性化されると思うので、そんなまちを目指したいと思います。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。続いて、吉田さんからいかがでしょうか。

吉田氏：
　「愛をさけぶまち」です。八幡の中心から愛をさけびたいということで、先ほどお話しした、「八幡愛」と発信力をもちたいということを掛けて、愛をさけぶまち、とさせていただきました。

進行（丸川）：
　いいね！がたくさんあがっています。ありがとうございます。続いて、岡橋さんお願いいたします。

岡橋氏：

先ほどから何度も言っていますが、「人が循環する街」です。“定住人口”を増やすのはなかなか今からは難しいと思います。ですからどうやって“交流人口”を増やすかということが大事だと思います。そのために、行ってみよう、寄ってみよう、というまちづくりが大事なことだと思います。また、循環するということは、人が動くということなので、実際に住んでいる方が健康でなければいけない。つまり、健康なまちづくり、みんなが健康であるというのが大事だと思います。それが結果的に、人が循環する街ということで、住んでいる方も外から来た人もみんなで循環することが最終的な活性化につながるのではないかと思っています。

また八幡東のカラーはどうだと言われると 3 色あると思います。真ん中に赤がありそれは「鉄」の赤だと思います。そして、左に青がありそれは「海」です。昔は、死の海と言われて汚かったのですが、今は本当にきれいな青い海になっています。右側には緑で、自然豊かな皿倉、河内の緑があります。このように赤を中心として青と緑がある、というのが私のイメージです。

進行（丸川）：

ありがとうございます。いいね！がたくさんあがっております。それでは最後に、金子さんからお願いいたします。

金子氏：

先ほどから一貫して言っていますが、「人の輪がある温かいまち」であってほしいなと思います。いざというときに、地域に頼れる人がいる、というのは暮らすうえで皆さんの安心感にもつながると思いますし、学生や女性や子どももそうです。子育てしている方は特にそうじゃないかなと思います。親世代の方で自分に何かもしあってしまったときに、子どもが地域のおじいちゃんおばあちゃんを一瞬でも頼っていくことができる、というのは人のつながりがなければ無理なので、そういった意味でも、人の輪がある温かいまちがいいなと思います。

進行（丸川）：

ありがとうございます。いいね！もたくさんあがっております。

それではここまで出たご意見を踏まえて、区長からコメントをお願いします。

喜洲区長：

まずは本日、この八幡東区の将来に向けてということで、たくさんのご意見と会場にもたくさんの方にお集まりいただきまして本当にありがとうございます。

わたくしもこの東区に参りまして 4 か月経ちますが、八幡東区のことを少しわかったように思っていましたが、改めて歴史も文化も人も魅力も含めて、奥深さを教えていただく良い機会になりました。

パネリストに皆さんからいただいたご意見では、畠中さんからは、世界遺産がありながら未来がある東田で、若者や小学生などが夢をすくすくと育てていけるようなまちを目指しては、というご意見をいただきました。また、吉田さんからは、八幡愛、ということで十分に愛が伝わってきましたが、この愛と発信力を強めるということで、個人とまちの接点、そして外の人にもいかに発信するかということは、非常に大切だなと思いました。また岡橋さんからは、来る人をどうやって循環させるのか。そして、健康をテーマにということは私も非常に大切だと思っていて、元気な高齢者が多いので、皆さんが参加して健康をテーマに色々なことができるのではないかと思います。若者を巻き込んで、みんなでまちをどうやって作っていくか、ぜひやっていきたいと思いました。それから金子さんからは、若い目で見てこのまちに若者を受け入れる力がある、包容力があるということを感じておられて、私も地域の力を感じていますが、若い目で見ても感じていただけていることがいいなと思いました。100 年後も残るように、人と人とのつながりを大切に、人の輪があるという部分は私も非常に心にしみた部分です。学生である強みを活かして、横の

つながりを、というお話もぜひやっていただきたいと思いますし、我々も協力して一緒にやっていきたいと感じました。
　また、参加者の方からも、環境、未来に向けてということで市が取組んでいることを積極的に外に発信する、というご意見をいただきまして、それも大切なことだと思います。たくさんのご意見をいただきまして本当にありがたいと思います。先ほどの小、中学生からの声もぜひ活かして、ビジョンに反映していきたいと思います。皆さんからこれだけたくさんの声をいただきましたので、大きな夢を描いて、実現に向けて皆さんと一緒に取り組んでまいりたいと考えております。本日はありがとうございました。

進行（丸川）：
　それでは最後に、武内市長より本日を振り返って一言申し上げます。

武内市長：
　今日は本当にありがとうございました。これだけ歴史と未来が同居しているまちは、日本中にも世界中にもなかなかないと思います。いろいろなことに根っこがあり、それが時の流れの中で未来に向けてどう進んでいくかを考えていくまちだと思います。
　東区はカフェテリアのように、色々とおいしそうな料理が並んでいるのですが、これをどう組み合わせて食べていくのか、どう組み合わせたら食べ合わせがいいのか、それを考えていくのが改めて大事だなと思いました。
　先ほど岡橋さんからもお話があったように、つながり、循環をどう作っていくかが重要で、いいものがたくさんあるので、思い切って何か一つ面白みがあるもの、インパクトのあるものを作る、あるいは尖らせることで勢いをつけていくというやり方が必要だと思います。中東のドバイも世界一をたくさん作っていて、世界一大きい観覧車やウォータースライダー、世界一大きいサッカー場 2 面分ある絵や額縁などを作っています。このように世界一じゃなくてもいいのですが、何かインパクトのあるもので、地域循環を回らせるための軌道をつくっていく、そのための大きなチャレンジを一つ東区でできれば、そこが原動力となり、勢いとなって回り始めるのではないかというイメージを持ちました。
　いずれにしても今日は、冒頭の区の若い職員の発表も最高でしたし、本当に老若男女多くの方にご参加いただきましてありがとうございました。一緒に東区を作っていきましょう。

司会
　以上をもちまして、ミライ・トーク in 八幡東区のプログラムを終了とさせていただきます。誠にありがとうございました。

以上